まちの将来像(案)に関する委員意見一覧

令和8年度第4回築上町総合計画審議会　意見照会(提出期限:令和8年8月28日／提出は任意）　／　委員19名中11名提出

資料1－4

No.	ご意見の内容（【１】将来像案について／【２】キーワード／【３】その他）
1	【1】 ユーモアがあるキャッチコピーを作ると馴染みやすいかなと思う。 【2】 夢　叶える　成長　向上心　飛躍
2	【1】 「子ども達が健やかに遊び、それを嬉しそうに眺めている親達が見える町」 【2】 子ども　健やか　明るい　未来
3	【1】 本案に込められた思いや願いは十分伝わります。気になるところが二か所あります(【3】参照)。 【3】 ①「幸福の好循環」→素敵な響きで、ここを目指す思いがよく伝わります。韻も踏んでいますし。ただ、「幸福」なので「循環」に「好」が必要なのでしょうか。「幸福の循環」が適した表現のように思います。「人生の好循環」なら「好」があってもいいでしょう。また「幸福」は抽象的で漠然とした印象です。いかがでしょうか。 ②「みんなの挑戦」→住民や関係の方々全員の力を合わせる必要があるという意図がうかがわれます。その思いが強いから「みんな」となっているのでしょうが、強制的な同調圧力的な印象も受けかねません。また、「みんな」がしてくれるなら自分はしなくても何とかなるといった他者依存のポーズに陥る人もいそうです。そこで、「みんな」を「一人一人」に置き換えることで、住民をはじめ関係するすべての人々が主体的に関わる必要性が強められ、それにより誰も取り残さない町であろうとするスタンスがにじみ伝わるのではないでしょうか。また、立場等の違いを容認し、「挑戦」の自由度が高まるようにも感じます。いかがでしょうか。
4	【1】 みんなの資源を循環させて住みよい町を創る 【2】 1. 住まいの循環(住んで、リホームして、また住んで):空き家を地域資源として活かし、次に循環させることで地域の活性化を図る。 2. 森林の循環(伐って、使って、植える):森林クレジットにより森林資源を循環させて雇用の創出や森林の価値を高める。 3. 農業の循環(使って、食って、堆肥する):養分が循環する農業を実践し、安心安全な食生活をつくる。 【3】 特にありません。【2】の記述が分類と合っていませんがまだ多くの循環要素があると思います。築上町のし尿の液肥が代表する様に破棄して終わりでなく、常に循環することで活力を生みこれからの町の進むべき方向だと考えます。
5	【1】 人口減少対策や地域振興の責任を負うべきは、税金を使い、政策を立案・執行する町役場です。にもかかわらず、「みんなの挑戦」という言葉は、役場の政策の不備やこれまでの結果に対する検証を棚上げにし、人口減少等の責任を住民の「主体性の欠如」へとすり替えるような印象を持ちました。住民は、これまでそれぞれの持ち場で十分に挑戦しています。さらなる挑戦を求められても、重圧を感じるだけで次の一歩へつながらないと思います。また、「幸福の好循環」からイメージできる施策が思いつきません。将来像に盛り込むにはあまりにも抽象的です。さらに、「幸福の好循環」という言葉は、北九州市の基本構想の中にも用いられています。避けた方がよろしいかと思います。 【2】 1. 将来像についての提案 〇限界を打ち破り富を生み地域で分かち合う共生のまち 築上町:深刻な人口減少、地域の衰退で諦め感が漂う築上町は役場も含め住民が自ら限界を作っていると思います。その限界を打ち破るためには、経済の立て直しが必須です。「富を生む」を将来像に盛り込むことで、産業政策に打ち込むことを宣言することができます。 2. キーワード 〇富、産業、いのちき:経済の立て直しが急務です。産業振興に力を入れることを将来像で宣言する必要あります。 〇子どもの笑顔:子どもが笑顔で元気であれば、町も明るくなります。 〇コミュニティーの再生:地域活動の団体が減っています。子供会、婦人会、青年団等、以前は地域にあった団体が減少して、地域に活気がありません。これらの団体の復活を支援することでコミュニティーの再生を図る必要があります。 【3】 第2次総合計画の将来像についての検証が、必要です。10年前から人口減少の危機は表面化していました。その現実を踏まえれば、将来像においても人口減少対策としての経済の強化が盛り込まれてもよかったと思います。その反省に立って、第3次総合計画の将来像を考える必要があります。また、将来像については、若者や女性の意見を聞く必要があるのではないでしょうか。
6	【1】 生活しやすいまちづくり 【2】 メタセの杜周辺の国有地の有効利用構想は広大な土地利用方法(例:ドイツの市民農園「クラインガルテル」) 【3】 閉校後の学校の有効利用は
7	【1】 第2次総合計画の将来像は「”自然と歴史・文化を育む”一心と体の健康を求めた「豊かな生活の場」づくり」とされており、まちの将来像として教育と福祉の充実が標榜され、「生活」に重点を置くまちづくりの方向性もよく理解できます。実際にこれに基づいてまちづくりが進められ、その結果として現在の築上町があるものと首肯できます。一方、第3次総合計画の将来像(案)「みんなの挑戦が　幸福の好循環を生むまち　築上町」とは、いったいどんなまちにすると言っているのでしょうか。町民に共通の認識を醸成することは可能でしょうか。何を目指し、何に取組むのでしょうか。これではまちの将来像とはいえないのではないでしょうか。何処の町でも言えるもの、個性も創造性もありません。 【2】 第2次総合計画を少しでもキチンと振り返り、その結果を見据え、現在の築上町の置かれた状況に真摯に対峙するのであれば、「”自然と歴史・文化を育む”一心と体の健康を求めた「豊かな生活の場」づくり」の対極のワードであることが必至です。産業、所得、働く場、労働、経済、生産といったワードを含まないままに、築上町の将来(像)はあり得ないと考えます。
8	【1】 ・築上町の独自性、強みが薄いように感じます。 ・多自治体との差別化は必要と考えます。 ・循環や挑戦といった言葉は分かりやすく良いと思います。 私が考えた将来像:「人が築き、地域を上げる。一人ひとりが活躍し続ける小さな町の大きな可能性　～築上町～」 ・築く:人、つながり、産業、地域を築く。 ・上げる:産業、所得、暮らし、幸福度、地域の価値を上げる。 ・人:行政主導ではなく町民、事業者、関係人口が主体。 ・小さな町だからできる:顔の見える可能性、参加しやすさ、挑戦しやすさ。 ・活躍し続ける:子ども、若者、子育て世代、高齢者まで年齢に関係なく役割を持つ。 【2】 築き上げる、人、活躍、小さな町
9	【1】 1. 基本的な意見 町民や職員モニターの皆さんで考えた既設の「幸福～」でも問題はないかと思いますが、委員の言われるように問題や訴えが不明瞭と感じるものとなっています。今住んでいる意図は、幸福と住み続ける意志は高いはずなので… 2. もっと問題と行動を促進させるために ①今一番の実現目標を前面に出すと「定住してください―受入れ万全！築上町」 ②子育てを前面に出すと「自然有あり、充実の教育と子育て環境＝家族・子育ての町！築上町」(町の施策として、町内何処に住んでも安定した暮らし保障を基に、減るより増やす、要は人口増加が基本と考えますしそれを現町民が考え、外に人に興味を持っていただきたいもので)
10	【1】 委員から、他の自治体も同じような将来像を掲げており斬新さがないといった発言があったが、総合計画推進本部、事務局で検討した結果の将来像であると思います。また、町長、職員、住民が一緒に挑戦して幸福の好循環を生むまち築上町を目指すということで、原案でよいと思います。
11	【1】 ・みんなの挑戦→町民に何か挑戦することを求めているように感じる ・幸福の定義は？ ・「まちづくりの5つの視点」一切入っていないので整合性がない 【2】 「やってみよう！」チャレンジあふれ幸せめぐる築上町 ・自分らしく暮らせるまち→挑戦とか幸福の意味を含むと思う ・ずっと住み続けていたいまち ・みんなで育てる、みんなが主役、みんなでつくる築上町→対話を大切にする